

社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日（〇）
第 5 校時 13：35～14：25
学校名 中学校
対 象 第 2 学年 A 組 34 名
会 場 教室
授業者 〇〇 〇〇

1 単元名

「日本の地域的特色と地域区分」—資源・エネルギーと産業—
（『新編新しい社会 地理』東京書籍、『アクティブ地理総合』浜島書店、『中学校社会科地図』帝国書院）

2 単元の目標

- ・日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解する。
- ・日本の地域的特色を、資源・エネルギーと産業と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・日本の地域的特色について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。	①日本の地域的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	①日本の地域的特色について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究している。

4 指導観

(1) 単元観

本単元については、「中学校学習指導要領第 2 章 第 2 節 社会〔地理的分野〕 2 内容 C 日本の様々な地域」では、以下のように記述されている。

C 日本の様々な地域

(2) 日本の地域的特色と地域区分

次の①から④までの項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

① 自然環境 ② 人口 ③ 資源・エネルギーと産業 ④ 交通・通信

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。

(イ) 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解すること。

(ウ) 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解すること。

(エ) 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解すること。

(オ) ①から④までの項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解すること。

(カ) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) ①から④までの項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 日本の地域的特色を、①から④までの項目に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

(内容の取扱い)

イ (2) については、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) ①から④までで示した日本の地域的特色については、系統的に理解を深めるための基本的な事柄で構成すること。

(イ) 地域区分に際しては、日本の地域的特色を見だしやすくなるようにそれぞれ適切な数で区分すること。

本単元では、分布や地域などに関わる視点に着目して、我が国の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。我が国の国土の地域的特色と地域区分の方法や意義を理解できるようにすることが求められている。

この中項目のうち、本単元に関わる「③ 資源・エネルギーと産業」について述べる。ここで身に付けさせたい事項は、ア (ウ) 「日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解すること」である。このうち、「国内の産業の動向」については、太平

洋ベルトには、工業や流通、金融、情報などに関する産業の盛んな地域が見られ、日本海側や北海道などには農業や水産業、地場産業、観光産業の盛んな地域が見られる。さらに、同じ工業でも、臨海部には造船業などとともに輸入資源を原材料とする鉄鋼業や石油化学工業などの盛んな地域が見られ、都市部には印刷業などの盛んな地域が見られるなど、自然及び社会的条件によって産業の地域的分業が進み、交通機関の発達などによって各産業地域は変容していることを取り扱うことを意味している。

この中項目で身に付けたい「知識」に関わる事項として、「我が国の国土の特色を大観し理解すること」が挙げられる。

この中項目で身に付けたい「技能」に関わる事項として、「日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けること」が挙げられる。

この中項目で身に付けたい「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項として、「①から④までの項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現すること」が挙げられる。このうち、「地域の共通点や差異」については、ある指標を基に他と異なる共通した性質をもつ等質地域としての空間的なまとまりを見いだすことを意味している。ここでは、作成された地域区分と他の項目から作成された地域区分を比較し、共通点や差異、分布の傾向性に着目して、多面的・多角的に考察・表現できるようにすることが大切である。地域の特色は、他地域と比較したり関連付けたりすることによってより一層明らかになってくる。しかし、一方で比較の仕方や関連付け方によっては、ある面だけを強調したりして誤解を助長する恐れもある。したがって、地域を比較し関連付ける際には、地域の規模に対応させたり、より視野を広げてみたり、過去と現在といった時間的経過などを考慮したりして、適切かつ多面的・多角的に取り扱うよう工夫する必要がある。

また、「日本の地域的特色を、①から④までの項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること」も挙げられる。このことは、①から④までの項目に関する学習によって作成された複数の分布図や地域区分を重ね合わせて関連付け、複数の項目による新たな地域区分を行い、そこで見いだされた地域の意味を多面的・多角的に考察し、地域的特色を表現できるようにすることを意味している。

(2) 生徒観

本単元における既習事項と生徒の実態について述べる。

本学年の生徒は、1年次に「世界の地域構成」「世界の様々な地域」について学習し、その知識を身に付けている生徒が多い。本単元については、小学校第5学年で、日本の農林水産業・工業・情報産業について学習してきている。中学校第2学年では、日本の自然環境、日本の人口、日本の交通・通信を学習している。既習事項を活用し、日本の資源・エネルギーと産業について多面的・多角的に事象をとらえさせる指導を行う。

本単元に関して、産業についてのブレインストーミングを行った結果、以下のような結果になった。「産業」という言葉から、第一次産業や第二次産業を指摘する生徒が多かった。一方、商業やサービス業への言及が少なく、既存の知識に偏りが見られる。本単元で

の学習を通じて、産業の分類を確かなものにしていく。今後も、第三次産業中心に推移していくことを予測させ、「日本の諸地域」の学習に繋げていく。

どのような産業を知っていますか。複数回答可。 (例) 農業
水産業、漁業、農業、畜産業、酪農、林業、工業、鉄鋼業、軽工業、重化学工業、機械工業、鉱業、建設業、繊維工業、商業、サービス業、教育業、卸売業、接客業、情報通信業、金融業、美容業
日本の産業について、どのような特徴があると思いますか。
<ul style="list-style-type: none">・発展している。・農業より工業の方が多くなっている。・たくさんある。・自動車生産が盛ん。・つくること、とること。・田んぼがある。／農業…食料生産・日本を支えている。／日本を豊かにしてくれる。・色々な特徴がある。／色々あって良い。・丁寧にできる。／質を大切にできる。／品質にこだわっている。／丁寧／几帳面・産業に勤める人が減っている。・獲得量や売り上げが減っている。・主に地方で行われている。／地方に工場や畑などの生産の拠点があり、都市部で多くを販売している。・大規模ではない。・作るものに偏りがある。・他国と協力して行っている。／外国の主税を借りているものがある。・受け継いでいる。／昔からの伝統を守りながら、手作業などでの生産をしている。・気候や四季などで様々な産業が栄えている。・自然を大切にしている。／環境にやさしい。・地域のよって異なる気候や地形を活かした様々な産業がある。・昔は工業などが盛んだったが、今はサービス業などを行うところが多い。・海に囲まれているから、漁業が発展している。・資源が乏しいため、海外から原料を輸入して加工をするという産業が発達している。・自他共栄・分からない。

昨年度以来、コロナ禍の中、グループでの学習を経験させることができなかった。他者と対話的に学ぶということに大きな課題を抱えている。タブレット等を活用し、現状で実施可能な方法で対話的な学びを実現したい。

(3) 教材観

本単元は、「日本の資源・エネルギーと産業」に関する内容である。単元全体を通して、世界の主な国と日本を比較できるような資料を取り扱っていく。比較を通して、日本の地域的特色が明らかになるからである。また、時間的な変容を捉えることができる資料を用いて、日本の将来像を構想させていき、地域の課題に主体的に関わる姿勢を育成していきたい。

後述の年間指導計画にあるように、教科書とは配列を変えて指導している。自然環境では国土の特色（山がち、島国、広大な排他的経済水域）、人口では急速な少子高齢化（将来の人口予測、過疎、過密）、結びつきでは、交通網・通信網の発達についての諸資料を取り扱った。これらの資料は本単元の学習で応用することができると考えている。

授業では教科書、資料集、地図帳以外に、授業者作成のプレゼンテーション(PowerPoint)、ワークシートなどを使用する。プレゼンテーションでは、単元構成を示したり、授業導入時のクイズを出題したり、学習活動の指示を投影したりしている。また、全体で共有する資料の提示も行っている。生徒は、プレゼンテーションを見ることによって、「今何をすべきか」「何の資料を見るべきか」という学習活動を容易に理解できるようになる。

また「学習の履歴」というワークシートを用いて、単元を見通して学習させている。この「学習の履歴」では、毎時間の授業の振り返りを行わせている。単元の終了時には、自分の考えがどのように変容したのかを記述させる活動を取り入れている。思考の変容を見取することで、生徒の思考力・判断力・表現力の評価につなげている。自分の思考を客観的に振り返ることでメタ認知の力が高まると考えられる。

5 年間指導計画における位置付け

《 2 学年 地理的分野：年間 60 時間 》

- (1) 日本の姿（5 時間）
- (2) 世界から見た日本の姿（15 時間）
 - 1 節 世界から見た日本の自然環境
 - 2 節 世界から見た日本の人口
 - 3 節 世界と日本の結び付き
 - 4 節 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業・・・本時を含む単元
- (3) 日本の諸地域（35 時間）
- (4) 身近な地域の調査（5 時間）

6 単元の指導計画と評価計画（全 6 時間）

単元を貫く問い：世界の国々から見ると、日本の資源・エネルギーと産業についてどのような特色があるか。

	目標	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）
--	----	-----------	------------------------

第1時	学習課題：世界の主な鉱産資源、エネルギー消費、産業分布の特色とは。		
	世界の主な鉱産資源、エネルギー、産業の分布や変化の特色をとらえる。	世界の産業分布図などから先進工業国と発展途上国の産業構造の特色や変化を読み取る。 見方・考え方：地域差	
第2時	学習課題：日本の資源やエネルギーについて、どのような特色をもつ国か。		
	日本の資源やエネルギーが、どのように確保されているのかを調べ、理解する。	日本の資源・エネルギー自給率のグラフや発電量の内訳を表したグラフから、資源の輸入に頼る日本の現状と資源確保の必要性を読み取る。 見方・考え方：関係性	ア①（ワークシート、小テスト）
第3時	学習課題：日本の農林水産業には、世界と比べてどのような特色があるか。		
	日本の農林水産業が世界と比べてどのような特色をもっているか諸資料から読み取り、今後の日本の農業について考える。	食料自給率低下がもたらす問題について関心をもち、これからの日本の農業の在り方を多面的・多角的に考え表現する。 見方・考え方：地方的特殊性	イ①（ワークシート、小テスト）
第4時	学習課題：日本の工業には、世界と比べてどのような特色があるか。		
	日本の工業が世界と比べてどのような特色をもっているか諸資料から読み取り、理解する。	日本の工業地域の分布図や工業地域別生産額のグラフから、工業地域の分布の特色を読み取り、工業地域の立地条件の変容について論述する。 見方・考え方：傾向性	ア①（ワークシート、小テスト）
第5時 (本時)	学習課題：日本の商業・サービス業には、世界と比べてどのような特色があるか。		
	日本の商業・サービス業が世界と比べてどのような特色をもっているか諸資料から読み取り、第三次産業の課題や展望を追究する。	情報サービス業、医療・福祉関係のサービス業、観光産業などの成長を諸資料と関連付けて調べ、今後の日本のサービス業の在り方を構想する。 見方・考え方：地方的特殊性	ウ①（ワークシート）

	学習課題：世界の国々から見ると、日本の資源・エネルギーと産業についてどのような特色があるか。		
第6時	世界から見て、日本の資源・エネルギーと産業はどのような特色があるか考察し、論述する。	日本の資源・エネルギーと産業の特色について、多面的・多角的に述べる。	イ①（レポート）

7 指導に当たって

(1) 社会的な見方・考え方について

本単元の学習では、以下の「社会的な見方・考え方」を働かせることを意図している。

ア 位置や分布に関わる視点として、「傾向性」「地域差」

イ 地域に関する視点として、「地方的特殊性」

ウ 空間的相互作用に関する視点として、「関係性」

(2) 「学習の履歴」（ワークシート）について

このワークシートは、単元の内容や時間のまとまりを見通した「単元を貫く問い」を設定する意図がある。そして、各授業における「社会的な見方・考え方を働かせることができる問い」に答えることでその授業の内容を毎時間まとめさせる。単元の最後にそれまでの記述内容を基に「単元を貫く問い」に答える、という過程を経る。授業者は、見通しをもって授業を展開することが可能となる。

生徒が「単元を貫く問い」を解決するため、「社会的な見方・考え方を働かせることができる問い」を単元全体で構造的に配置し、学習計画を可視化することができる。また、生徒は、見通しをもって授業に臨むことができるとともに、社会的な見方・考え方を働かせて解答する「問い」によって単元が設計されているため、単元のまとめを行う際に多面的・多角的な考察や構想が可能となると考えられる。

また、「学習の履歴」は、授業者と生徒の双方向のやり取りを通して形成的評価に資するものである。単元の最終で記述したものについては総括的評価に資するものである。指導と評価の一体化に関して、有効なものである。

【参考文献】

- ・平成30年度 東京都教育研究員 中学校社会科報告書「社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等の育成を目指して～社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」の工夫～」東京都教育委員会、2019年
- ・堀哲夫『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 一枚の可能性』東洋館出版社、2013年
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』東洋館出版社、2020年

8 本時（全6時間中の第5時）

(1) 本時の目標

- ・日本の商業・サービス業が世界と比べてどのような特色をもっているか諸資料から読み取り、第三次産業の課題や展望を追究する。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 5分	○第三次産業 ・産業別国内総生産のグラフの変化を読み取る。 ・どのような種類の業種があるか読み取る。	・第一次産業、第二次産業以外の産業は第三次産業に分類されることを指摘する。 ・公民的分野でも学習することに触れる。	
展開 ① 10分	○商業と立地の関連 ・商店は、どのような場所に立地するか考え、ワークシートに記述する。	・本文や写真資料を活用して、 位置の傾向性 を捉えさせる。	
展開 ② 10分	○サービス業成長の理由 ・サービス業の成長の理由を考え、ワークシートに記述する。	・本文を活用し、成長の背景となる事象を捉えさせる。	
展開 ③ 15分	○今後、日本で成長する第三次産業（予想） ・今後、日本で成長する第三次産業を予想し、理由とともに論述する。 ・班員と共有する。 ・学級で共有する。	・既習事項との関連を示す。（少子高齢化、アジア州の発展、三大都市圏への人口集中、交通・通信の発展） ・時間的視点から、 地域（日本）の特殊性 を捉えさせる。	ウ① よりよい社会の実現に向けて、日本の第三次産業の課題や展望を追究しようとしている。（ワークシート）
まとめ 10分	○振り返り ・本日の学習内容を振り返り、ワークシートに記入する。	・机間指導を行い、記入状況を確認する。	

(3) 板書計画

<p>5/27 P168 5. 日本の商業・サービス業</p> <p>目標：日本の商業・サービス業が世界と比べてどのような特色をもっているか？</p> <p>○多様化する商業 百貨店：都心、ターミナル駅 スーパー：郊外 コンビニ：住宅地 ネットショッピング</p> <p>○サービス業 医療・福祉←少子高齢社会 情報サービス産業←人が集まる</p>	<p>(展開③のスライド例)</p> <p>①今後、日本で成長する第三次産業を予想し、理由とともに論述する。</p> <p>②班員と共有する。</p> <p>③学級で共有する。</p>
--	--

※黒板右側にスライドを投影。

(4) 授業観察の視点

- ア 本時の学習内容は、本時の目標及び単元の目標を達成する上で適切であったか。
- イ 本時の指導は、「指導と評価の一体化」に資するものであったか。